

化学肥料と別府鉄道 ～化学肥料の創始者 多木久米次郎～

山陽電車の別府駅をおりて南に行くくとイトーヨーカドーを中核施設とする広大なショッピングセンター「グリーンプラザべふ」があります。このショッピングセンターは昭和 63 年(1988)に開業しましたが、それ以前、このあたり一帯に高い煙突群が並ぶ工場がありました。それは、日本の化学肥料の発祥、多木製肥所(現多木化学株式会社)の工場でした。今もショッピングセンターの南に多木化学の本社の建物があり、県道 718 号線(旧国道 250 号線:旧浜国道)沿いに工場、多木化学研究所があります。多木化学は、現在は、「タキコート」などの優れた化学肥料だけでなく、水処理薬剤をはじめとする工業薬品や医療用材料の開発などの化学品事業、不動産事業、子育てサポート事業など多角的に事業を展開しています。

○化学肥料の創始者 多木久米次郎(たき くめじろう)(1859～1942)

多木久米次郎は、安政 6 年(1859)に加古郡別府村(現在の加古川市別府町)に生まれました。人造肥料(化学肥料)の創始者で、一人一事業をモットーに社会発展を説き、明治・大正・昭和の三大にわたって化学肥料の発展に尽くしました。明治 41 年(1908)に衆議院議員に当選し、6 度選出され、政治の場でも活躍し、昭和 14 年(1929)には貴族院議員にも選ばれました。

別府軽便鉄道の創設の他、地元教育の振興にも寄与しました。その功績を称えた顕彰碑(像は戦時中の金属類供出で提供)が別府の住吉神社に建ち、そのすぐ東には地元の人々から「あかがね御殿」と呼ばれる久米次郎が建てた迎賓館「多木浜洋館」(平成 14 年指定国登録有形文化財)があります。

この建物は、大正 7 年(1918)に着工、昭和 8 年(1933)に完成。屋根・外壁を銅板葺にしており当初その色から「あかがね御殿」の名がつけましたが、年月とともに黒く変化し、一部は青緑になっています。

○化学肥料輸送と別府鉄道(1921 開業～1984 廃止)

多木久米次郎は、明治 18 年(1885)、骨粉(獣骨に含まれる窒素とリン酸に着目)をもとにした人造肥料の製造に初めて成功し、蒸製骨粉の製造販売を個人で開始しました。大正 7 年(1918)多木製肥所を設立(1974 年、社名「多木化学」へ改称)しました。大正 4 年(1915)に、肥料輸送の目的で、別府軽便鉄道株式会社(別府鉄道)を設立し、大正 10 年(1921)に野口線を開業、大正 12(1923)に土山線を開業しました。別府鉄道は、肥料輸送だけでなく、旅客輸送も担いました。

別府港は、昭和 30 年代までは砂浜がひろがっており、潮干狩りや海水浴客を運んでおり、ピーク時の 1960 年代(昭和 40 年頃)には、年間の乗客 30 万人、貨物量 25 万トンほどを記録しました。その後、自動車の普及とともに輸送量が減少し、また、国鉄の合理化計画により土山駅で国鉄線へ受け渡す貨物輸送ができなくなり、昭和 59 年(1984)2 月 1 日に全線が廃止されました。現在、野口線は「松風こみち」、土山線は「であいのみち」の名で、遊歩道として整備されています。「松風こみち」の近くには「旧野口駅跡」や「松風ギャラリー」、「であいのみち」には「播磨町郷土資料館」や「兵庫県立考古博物館」などの施設があります。



野口線 1921(大正 10)年 開通
 国鉄(現JR)高砂線(廃線)野口駅～別府港駅 3.6 km
 旅客輸送が中心で、ピーク時 1 日 10 往復

土山線 1923(大正 12)年 開通
 国鉄(現JR)山陽本線 土山駅～別府港駅 4.0 km
 貨物輸送が中心で、ピーク時は 1 日 5 往復



(参考資料) 『ビジュアルブックス 時代のパイオニアたち』(2003 年 神戸新聞総合出版センター)
 『鉄道がきた! 一舟運・海運・馬車道・鉄道-』(2014 年 兵庫県立考古博物館)
 播磨町郷土資料館展示資料 『Kako-Style2』(2015 年 特定非営利活動法人 シミズシーズ) ほか